

精神科第二病棟の現状

精神科第二病棟看護長 古 木 和 夫

昭和 41 年当院精神科病棟に就職して以来 30 年、当時の治療は隔離中心の中で、作業療法、レクリエーション療法が主でした。(もちろん抗精神薬もありましたが) 円筒作り、養鶏、釣り仕掛けセット、農耕、稲刈、イモ拾い等々、レクリエーションでは運動会、盆踊り、クリスマスと四季おりおりの行事を取り入れ、精神症状の安定を図り規則正しい生活の中から働く意欲と喜びを知り、社会へと復帰した。

しかし、数多くの患者さんは今でも入院生活を送っている、或いは入退院を繰り返す人とさまざ

まです。

平成 9 年 10 月 3 日現在図 (1) のように、31 年以上入院されている患者さんが 12 名 (17%)、21 年以上となると 16 名 (23%)、当然高齢化しており図 (1) のように 71 才以上が 5 名 (7%)、61 才以上は 21 名 (30%) と全体の約 3 分の 1 となっています。

寝たきり老人はいないものの全介助を要する患者さんは 12 名 (内 8 名が車椅子使用者) です。50 才代が 17 名いることからますます高齢化していくものと思われます。

図 (1)

		~3ヶ月	~6ヶ月	~ 1年	~ 3年	~ 5年	~10年	~15年	~ 20年	~ 25年	~ 30年	~ 40年	~	
0~20才	(男)													
	(女)													
21~30才	(男)	1		1										2
	(女)	1		1										2
31~40才	(男)				1	1	1		2					5
	(女)				1		1							2
41~50才	(男)			3	1		3	1	1	1	1			11
	(女)					2		4	2					8
51~60才	(男)		1		1		3	1	2	2		4		14
	(女)						1					2		3
61~70才	(男)				1	2			2			1	1	7
	(女)		1					4				4		9
71才~	(男)	1			2									3
	(女)				1			1						2
		3	2	5	8	5	9	11	9	3	1	11	1	68

さて、精神科といえば分裂病が主である（入院患者の75%）。病識がないため入院拒否、時には興奮状態になりかねない。自傷、他害を防ぐため個室を要することが多い閉鎖病棟、さらには身体的合併を持つ患者が多くなってきた昨今、管理上個室が重要になってきた、しかし既存病棟では構造上かなり問題点が多い、つまり、病室が狭い、廊下が狭い、個室が少ない、酸素パイピングが少ない等です。

高齢者社会に入り全介助を要する患者が多くなってきた事、身体管理が必要な第二病棟において（第一病棟も同様）昭和46年病棟新築後25年目を迎えた精神科病棟は、道北センター病院としてあたたかみのある看護と充実した施設完備、更に現作業療法棟の充実は基よりディケア施設を踏まえた精神科病棟の新築を考えていかなければならない。

透析室の現況

臨床工学技士 平 間 秀 昭

平成4年6月22日病院新築に伴って9床の人工透析室が新設され、2名の新規導入患者の治療でスタートした。透析治療を受ける慢性腎不全患者は離脱することなく、基本的に週3回（月・水・金もしくは火・木・土の午前中）3時間から4時間の治療を生涯続けなくてはならない。従って、一度治療を受け始めると、仮に入院している患者が退院しても、外来での通院と言うことになるだけで、入院時とはあまり変わらない生活を送らなくてはならない。病院としてみれば、患者数が増えることがあっても基本的には決して減ることがない部署であり、まさに病院思いではある（？）が、1つの難点は保険点数が下がり傾向で、当初患者1人当たり1ヶ月約50000点だったものが、現在では約40000点強となっている。

そんな透析室も平成4年9月からは2部透析（月・水・金の午後）が始まり、平成10年5月現在では患者数は33名とベッド数を遙かにオーバーし、全血液浄化件数も年間で、平成8年度が4218件、9年度が4287件となった（図1、図2、表1）。

これらの内訳は、血液透析（HD）8年度3865件に対し9年度3948件（2.1%増）、血液濾過透析（HDF）同277件に対し288件（3.8%増）、限外濾過（Ecm）同67件に対し46件（31.3%減）と限外濾過以外はやや増加しているが、これは、ベッド数の都合で頭打ちの状態になっていると言うのが現状である。その他にも、血液濾過（HF）、腹水濾過濃縮再静注法、二重濾過血漿交換（DFPP）、持続緩徐式血液濾過法（CHF）、血漿交換（PE）等行っているが症例はごく少数である。

また、日曜及び夜間の緊急透析呼び出し回数は平成8年度8件、平成9年度8件と変化はなかった。病棟への出張透析件数は平成8年度49件、平成9年度62件と微増である。

平成11年には透析室増床が計画されており、病床数も現9床から25床へと大幅に増え、今後ますます増加し続けるであろう慢性腎不全患者等に対応していきたい。